



# ヒヤリハットの話

危険は、日常のさまざまなところに潜んでいます。ちょっとした不注意や気の緩みが思わぬアクシデントにつながることも。ヒヤリとしたり、ハットしたら、放っておかずに危険の芽は早めに摘むようにしましょう。

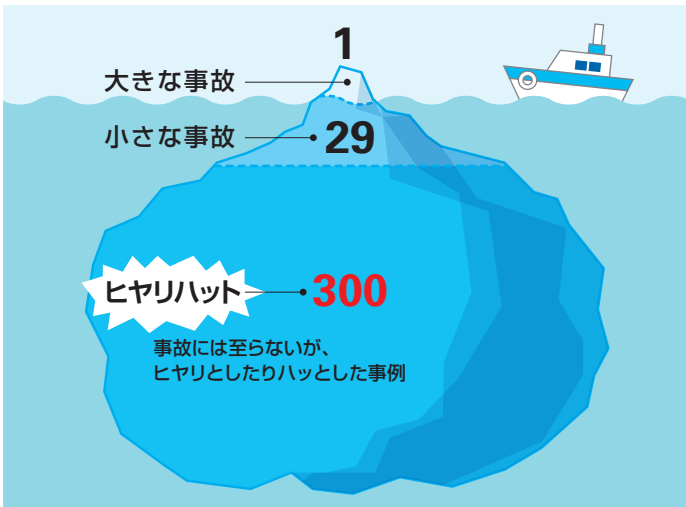


「ヒヤリハット」という言葉は、皆さんもよくご存知ですよね。幸い重大な事態には至らなかったものの、一歩間違えば大きな事故や災害に直結していたかもしれない危険な出来事＝ヒヤリとしたり、ハットした事例のことです。

そして、このヒヤリハットに関連する法則が「ハインリッヒの法則」。1件の大きな事故や災害の背景には、29件の小さな事故や災害があり、そのまた裏には300件のヒヤリとしたり、ハットした事例が存在するというもので「1:29:300の法則」とも呼ばれます。

毎日の仕事の中でヒヤリとした出来事は300分の1かもしれませんが、そのままにしておいてはいけません。ヒヤリハットは大きな事故の注意信号と考えて、日頃からみんなで共有しておくことが大切です。「共有」というと難しくそうですが、「誰かに話す」と捉えてはいかがでしょうか。ヒヤリハットに直面したら、忘れる前——たとえば休憩や食事の時間に、誰かに話すだけでもヒヤリハット情報の輪は広がります。

## ●「ハインリッヒの法則」イメージ



情報共有をさらに徹底するためにはどうすれば良いでしょうか。自分のミスや人を話すのは恥ずかしい、同僚の失敗を指摘するのは気が引ける、などヒヤリハットの報告はとくくマイナスに考えがち。しかし、事故や災害が起きる一歩手前の事象や経験を互いに報告し、確認し合うことはとても大切なことです。安全講習会やミーティングなどでヒヤリハットのブレーンストーミングをやってみましょう。ブレーンストーミングとは、相手の意見に反論せず、自由に意見やアイデアを出し合うことです。一人で考えるよりも仲間の意見を聞くことで、新しいアイデアが生まれ、改善策を発見できたりします。



今朝、構内を走っていたらあのカーブのところでスリップして人とぶつかりそうになったよ

ああ、確かにあそこは路面が凍結しやすいそうだなこれからはボクも注意するよ

ミスを起こしてしまったからといって、それを隠したり、ごまかしたりするのはなく、どうしてそのようなことが起こったのか、なぜそのような状況に至ったのかを追求していきましょう。情報を共有することで危険な場所や行動をみんなで認識することができ、さらにブレーンストーミングを行うことで、事故や災害の可能性を小さくすることができます。参加者の安全への意識も高まりますので、ぜひ実施してみてください。

ヒヤリハットは事故の予備軍。もう一度しっかり洗い出して職場から危険を遠ざけるようにしましょう。

## 今日のワンポイント

### 転ばぬ先のヒヤリハット情報共有！

一人ひとりが体験したヒヤリハット情報を日常的に共有し、ブレーンストーミングでみんなのアイデアを自由に出し合ひましょう。

#### ブレーンストーミングのポイント

- ① 危ない! と思った経験や出来事
- ② なぜ、危ないと思ったか
- ③ 最悪の場合に想定される事故や災害
- ④ このようなことが起こってしまう原因・理由
- ⑤ このようなことが起こらないようにする工夫・対策



#### たとえば「冬の構内運転」の場合…

- ① 走行中にスリップした
- ② ハンドルで制御できなかった
- ③ 他車への追突、歩行者との接触事故
- ④ 路面の凍結
- ⑤ タイヤチェーンの装着、危険箇所での減速